

実践報告

# 学生演劇による情報モラル育成のための ボランティア活動の実践

今村 一希<sup>\*1</sup> ・ 古賀 萌子<sup>\*2</sup> ・ 古川 卓<sup>\*3</sup> ・ 中溝 徹<sup>\*4</sup>  
矢野 滉<sup>\*2</sup> ・ 岡本 百華<sup>\*2</sup> ・ 野崎 勝謙<sup>\*2</sup> ・ 角 和博<sup>\*5</sup>

## Volunteer Activities of Student Drama for Information Ethics

Kazuki IMAMURA<sup>\*1</sup>, Moeko KOGA<sup>\*2</sup>, Takashi FURUKAWA<sup>\*3</sup>,  
Tooru NAKAMIZO<sup>\*4</sup>, Takeshi YANO<sup>\*2</sup>, Momoka OKAMOTO<sup>\*2</sup>,  
Katsunori NOZAKI<sup>\*2</sup> and Kazuhiro SUMI<sup>\*5</sup>

### 【要約】

佐賀大学の教員および学生などが参画する特定非営利活動法人ITサポートさが（以下「ITサポートさが」という）の活動のひとつであるkodomo2.0プロジェクトは、様々な世代に対して情報モラル啓発のために講演活動を行っている。今年度からは外部から講師の先生を招き、次世代の子ども達へ指導する力をつけさせる「チューター養成講座」を行っている。

本報告では、kodomo2.0プロジェクトが行った平成25年度の実践と、チューター養成講座の詳細について報告する。

### 【キーワード】

携帯情報、スマートフォン、情報モラル教育、チューター、コミュニティFM

## 1. はじめに

平成19年度に発足した子どものネットの安心・安全を守るNPO法人ITサポートさが、kodomo2.0プロジェクトは、佐賀県におけるデジタルデバイトの解消と安心・安全なインターネット社会の実現を目指して活動している。

早い段階から子ども達に情報モラル教育を行うことが必要だと筆者らは考え、ネットモラルやサイバー犯罪から子ども達を守るためにドラマ教材を作成し、小学校、中学校、および高校生向けに講演活動を行っている。

## 2. ITサポートさがの活動の概要

ITサポートさがでは大人や子ども達を対象にして、情報モラル啓発劇、コミュニティラジオ放送、啓発を促すクリアファイルの作成、さらに指導者を養成するチューター養成講座を行った。

## 2.1 学生の活動への関わり

kodomo2.0プロジェクトにおける学生メンバーの役割は、毎週金曜日の夜に行われる「定例会議」への参加、佐賀県内の小学校、中学校などで行う講演会へ参加し、情報モラル啓発劇「たつくん劇場」「Kidさが」の公演、佐賀市にあるコミュニティFM「えびすFM」にて情報モラル啓発番組「Radio 2.0」の制作、放送、情報モラル育成教材の作成などである。

情報モラル育成教材に関して、今年度はインターネットの危険性をわかりやすくイラスト化した「クリアファイル」の作成や「情報モラル啓発アニメ」作成を行ったが、ここでは割愛する。

## 2.2 学生の定例会議への参加

毎週金曜日19時より佐賀大学文化教育学部5号館角研究室にてITサポートさがの「定例会議（以

\*1佐賀大学理工学部都市工学科

\*2佐賀大学文化教育学部学校教育課程

\*3佐賀大学文化教育学部人間環境課程

\*4佐賀大学理工学部電気電子工学科

\*5佐賀大学文化教育学部

下「定例会」と書く)を行っている。

筆者らはこの「定例会」にてITサポートさがメンバーと活動内容の打ち合わせを行っている。話し合いの内容としては、今年度は夏の合宿やチューター養成講座などイベントの打ち合わせなどが主なものとなった。また、講演会の依頼について参加可能なメンバーを募り、講演会で話す内容や演目を決定したりもする。

WordPressを用いた「議事録」を作成しており、話し合いで決まった内容や参加者、今後の予定等を記した。この「議事録」はメンバーであれば誰でも見ることができ、筆者ら学生メンバーが記録を取っている。



図1 定例会の様子

### 2.2.1 定例会への外部からの参加者

定例会の参加者は基本的には筆者らITサポートさがメンバーだけだが、外部の組織と連携してイベントなどを行う場合、外部の方が参加されることがある。

我々が佐賀県警と連携している関係から佐賀県警察本部生活安全部生活環境サイバー犯罪対策課長補佐の藤井信吾様、佐賀県と協力して、コミュニケーション能力養成合宿などを行ったことから、佐賀県青少年育成県民会議の中野様、他、佐賀市PTA協議会会長の山田様、佐賀県中学校生徒指導連盟の方など、今年度もたくさんの方が定例会に参加された。

### 2.2.2 定例会での打ち合わせ以外の活動

筆者ら学生メンバーは、これらの打ち合わせ以外にも講演会で行う啓発劇の練習、講演会のリハーサルなども行っている。



図2 啓発劇リハーサルの様子

## 3. 情報モラル啓発講演会

我々kodomo2.0は佐賀県内の小、中学校、公民館などでの情報モラルを訴える講演活動を中心に活動している。

ここでは講演会において筆者ら学生が中心になって活動している啓発劇「たっくん劇場」と「Kidさが」について取り上げる。

### 3.1 たっくん劇場

情報モラル啓発劇「たっくん劇場」は、昨年度まで行っていた「YOKOOH!劇場」に代わり、今年度から上演している。携帯電話やゲーム機などを使ったインターネットの危険性を、実際に起きている題材をもとに劇をつくり、教材としたものである。

主な演目の内容としては、本劇の主人公「たっくん」が祖父の携帯電話を借りてインターネットを使用したことにより高額な請求が来たり、他人の家の無線LANを無断拝借することによってトラブルに巻き込まれたりするというものである。演技者の後ろには劇の内容に関する画面を紙芝居形式で投影し、場面をわかりやすくする工夫をしている。

今年度は主に学校などで児童や保護者を対象に行った。劇の合間に解説者が登場し、実際の事例や例示を示しながら解説を行うという形態をとり、劇の途中に小話を挟むことで、より理解を深める試みも行った。この際は参考や実際のデータをスライドに投影することで、大事なポイントを明確にしている。



図3 「たつくん劇場」

### 3.2 Kidさが

Kodomo2.0の活動の一環として平成22年度から情報モラル啓発劇の劇団員養成講座を開催し、佐賀県内の小学生、中学生、高校生による啓発劇団「Kidさが」を発足し、公演活動を実施している。

1幕あたりおよそ7分から9分程度で、現在6幕の演目が存在する。

今年度は既存の「ファンサイト編」「学校裏サイト編」「アダルトサイト編」「違法ダウンロード編」「チェーンメール編」の5つに加え、新しく「LINE編」を上演した。

表1 Kidさが演目一覧

演 目	キーワード
ファンサイト編	架空請求
学校裏サイト編	裏サイト・匿名性
アダルトサイト編	ワンクリック詐欺
違法ダウンロード編	違法ダウンロード
チェーンメール編	情報発信の危険性
LINE編	ネットいじめ

上記のうち今年度は「学校裏サイト編」「チェーンメール編」「LINE編」の3幕を中心に上演した。

また、すべての演目にはそれぞれキーワードを設定しており、劇の内容で問題になる点を一つ一つ解説することで、理解しやすくなるように配慮している。

#### 3.2.1 「Kidさが」 学校裏サイト編

今年度に上演した3幕のうち、小学生と高校生の2人で講演しているのが「学校裏サイト編」である。これは、携帯電話やスマートフォンを持ち始めたばかりの子どもたちに向けた演目である。

また、この劇の解説では、インターネットの匿名性について詳しく解説している。

インターネットは自分たちが見ているだけではなく、友達の友達など誰でも見る事が出来るということ意識して使用するよう注意を呼びかけている。



図4 学校裏サイト編

#### 3.2.2 「Kidさが」 LINE編

この「LINE編」は今年8月に佐賀県内の小・中・高校生を対象にコミュニケーション能力養成合宿を行った際、劇作家である平田オリザ氏の指導のもと子ども達が作成したものである。

これは最近問題になってきているLINEでのイジメ問題について取り上げている。こちらは、LINEをよく利用ようになる中高生やその保護者に向けた演目で、実際にLINEの画面でのやり取りをスクリーンに投影することで、保護者にもわかりやすく、中高生にも親しみやすくなるように配慮してある。



図5 LINE編

#### 3.2.3 「Kidさが」 チェーンメール編

この演目は先の2つとは毛色が異なる。

登場人物は高校生という設定で、テンションの落差などで笑いを誘い、楽しみながら情報モラル



に触れられる内容になっている。解説の際には、保護者の方にもわかりやすいように過去あった事例（2003年12月の「佐賀銀行取り付け騒ぎ」等）を例にあげ、わかりやすくしている。



図6 チェーンメール編

### 3.3 今後の課題

このように大学生が中心となって啓発劇を上演しているが、「LINE編」を除き、台本制作が数年前と今となっては題材が古く、フィーチャーフォンを対象とした事例が多い。

スマートフォンに対応した演目が少なく、今起きている問題に対応できているかが疑わしくなっている。

今後、筆者らはスマートフォンを活用した事例の演目作成を積極的に行っていく予定である。

## 4. FMラジオを用いた情報モラル教育

佐賀市のコミュニティ放送局「えびすFM」(89.6MHz)にて、平成24年9月6日より「Radio2.0」を放送している。この番組は、ラジオを聴きながら情報モラルを学ぶことを趣旨としたものであり、奇数週の木曜日20時から21時までの1時間Kodomo 2.0の大学生メンバーを中心に番組を構成している。

### 4.1 番組内容

昨年度の放送に登場していた「語ってモラル」、「モラドラ」、「今さら聞けないICT用語」、今週の検索」、「今時のスマホ事情」の5つのコーナーに加え、今年度の放送には「クイズICT用語」、「Kodomo2.0 ってなあに」の2つの新コーナーが登場した。また、新しくスマートフォンやパソコンを購入する人が多い春には、購入する際の留意点などを特別

企画として放送したり、1つのテーマの下パーソナリティー全員で議論をしたりと、昨年度とは一味違った新しい形での放送を目指した。新しく登場した2つのコーナーの説明は以下に記述する。

#### 4.1.1 クイズICT用語

パーソナリティーの1人がICT用語に関するクイズを考え出題し、そのクイズに他のパーソナリティーが答えるというコーナーである。

クイズの題材は出題者自身が探し作問するが、過去に放送で取り扱った内容を復習として出題することもある。出題した問題文と解答は、放送後記を掲載した公式ブログ「モララジKodomo2.0のRadio2.0」(<http://moral-radio.sblo.jp/>)に全文掲載している。

#### 4.1.2 Kodomo2.0 ってなあに

パーソナリティーが所属するKodomo2.0の活動を紹介するコーナーである。

情報モラル学習チューター養成講座（後述）や、パーソナリティー以外のメンバーも含めて行っている週末の講演会活動など、ラジオ以外の活動についての紹介に加え、活動の振り返りや今後の課題について語り合うといった形式で放送している。



図7 スタジオの様子

### 4.2 「Radio2.0」における今後の課題

今年度は高校生とラジオドラマを共同制作する「モラドラ」コーナーの登場が無く、ゲストの登場も少ない放送となった。今後の課題としては、「モラドラ」コーナー復活はもちろんのこと、ゲストを積極的に招き、公式ブログ、Twitterを活用することで、リスナー参加型の放送を目指すこ

とがあげられる。

## 5. 情報モラル学習チューター養成講座

今年度の新しい取り組みとして、小中高校の教育現場で「子どもたちの学習」を援助し、「子どもたちの学び合い」を促進する教育スタッフ、すなわち「情報モラル学習チューター」の養成講座が計3回開かれた。情報モラル学習の新しい指導法を学ぶため、主に教職員、大学生が受講した。各回の内容については以下に記述する。

### 5.1 第1回「フィンランド・メソッドを用いた情報モラル学習におけるファシリテーションのあり方」

平成25年10月19日、1回目の講座が佐賀市のアバンセで開かれた。講師として早稲田大学教職大学院教授の田中博之先生をお招きした。上記のタイトルの下、「フィンランド・メソッドを用いたファシリテーションのあり方を学ぶ」、「カルタ（一般にイメージ・マップと呼ばれるもので、自分の頭の中にあるイメージや知識などをネットワーク状に整理するために描く図のこと）を用いたイメージ化の技法を身に付ける」、「サークルタイムを用いた対話とシェアリングのあり方を身に付ける」、「ファシリテーションを通じた情報モラル学習の指導力を身に付ける」の以上4点をねらいとして約2時間半、ワークショップ中心の活動が行われた。



図8 グループ発表の様子

まず「ファシリテーション」の意味、求められる能力を学んだ後、ネットいじめ、ネット誘引を

テーマにワークショップを行った。内容としては、それぞれのテーマのビデオを視聴し、個人でカルタを記入、サークルタイムで共有と対話を行った後、グループごとに発表するといった流れであった。なお、サークルタイムとは本来「床の上に円形に座ってあるテーマのもとに全員参加で対話をする活動」を指すものであるが、今回は会場の都合上椅子に座り、「発言者はボールを手にする」という意見を聞くために設けられたルールに従ったボールのやり取りは机上で行った。最後の発表では、同じテーマの下で活動をしたにもかかわらず、各グループの視点が異なったことなどから、質疑応答の時間には盛んに意見交換が行われていた。

### 5.2 第2回「思春期とピアエデュケーション」

2回目の講座は11月9日、佐賀駅前のiスクエアビルで開かれた。講師として佐賀大学保健管理センター所属、思春期ネットワーク佐賀事務局長の武富弥栄子先生をお招きした。大学生が同世代の若者を対象に、性について考えるきっかけづくりをしたり、自己決定できるようにピア（仲間）の立場から一緒に考えたりする活動を支えている武富先生曰く「情報モラル教育は性教育と似ているところがある。」という。

簡単なアイスブレイクを行った後、ピアカウンセリングを行う上での基礎知識や構成的グループエンカウンターについての説明が続いた。グループ活動も交えた約5時間の活動の中では「情報がいくら正確であっても、教育がどれだけ充実していても、それだけでは知識が増えるだけで生きる力を育むことはできない。対話や関係性を通じた感動やその共感が必要不可欠である。」というこれからの人づくりの観点を話され、いかにしてその感動や共感を生み出していくかを考えることが今後の課題であると締めくくられた。

### 5.3 第3回「デートDV学習手法を応用した情報モラルピアサポート体験」

最終回となった第3回目の講座は、前回同様iスクエアビルにて11月30日に行われた。佐賀県DV総合対策センター所長である原健一先生を講師としてお招きし、約3時間の講座が開かれた。第3回目の講座は大学生の参加者が多く、そのため各グループは大学生を中心に構成された。資料として、実際に中学生対象の講演会で使ったスライド、学習シート、中学校授業案が配布され、まずはスライドで「ネットいじめ」や「ネット依存」などの単語の意味を学び、「SNSサイトを利用した犯罪の目的のうち6割は性交目的」であることや「SNSサイトを利用した犯罪者のプロフィールは半分近くが嘘である」といった具体的な数値データを見て現状を把握することから講座は始まった。その後、既存のスライドや学習シートの内容についての修正案や、高校生に向けて実践する場合の内容についてグループごとに話し合い、意見を発表し、その意見を会場全体で検討、共有するといった流れで行われた。

### 5.4 振り返りと今後の目標

全3回の講座を通して、主催者側からも参加者側からも多く聞かれた声が「さまざまな角度から出てきた意見を共有できたことが大きかった」というものであった。様々な学部学科に所属する大学生の意見が飛び交ったり、現職の教員の参加によって現場の声を聞きながら議論を展開したりすることで、講座内容がより深いものになったと考えられる。今後は実習が予定されているが、実習ならではの課題が多く存在することは確かである。しかし講座内容を活かしながら経験を積んでいくことで、本講座に参加した者がそれぞれの現場で中心となり、そこからさらなる情報モラルの教育活動につなげていく存在となることが期待される。このことを最終目標とし、その実現のために我々主催者側は今後も本事業に力を入れ活動を行っていくつもりである。

## 6. おわりに

昨年我々が行った調査※6)によると、小学校高学年の25%が携帯電話を所持しており、そのうち半数以上がスマートフォンを所持していた。また、高校生は約90%が携帯電話を所持、スマートフォンはそのうち6割が所持しているという状況が明らかになった。今年はより所持率が上がっていることが予想される。

スマートフォンは従来のフィーチャーフォンと比べ、多機能で便利なものである。それはもはや多機能携帯電話ではなく、電話機能のついたパソコンと言っても過言ではない。しかしその反面、その進化の早さゆえに安定した安全な環境の構築が難しく、未だに多くの危険性をはらんだコンテンツが野放し状態であり、またその危険性を把握していないユーザーが多数存在している現状がある。

来年度からは佐賀県立高校にタブレットPCが導入される。利用者となる高校生に、その長所や短所をしっかりと把握させ、その利用方法を慎重に模索していく姿勢を身に付けさせるためにも、学校現場における情報モラル教育により力を入れていく必要がある。

筆者らはこれからもインターネットの危険性と利便性を多くの人に理解してもらうために今後も活動を続けていくつもりである。

### 【参考文献】

- 1) 陣内、横尾、江口、石橋、浴本、松田、青柳、小倉、山崎、羽田、中村、角. 2009. 「青少年の情報モラル醸成のための産官学民連携に保護者向け教育実践—青少年の情報モラル育成のためのドラマ教材—」『佐賀大学教育実践研究』第25号, 285-292
- 2) 野崎、陣内、浴本、横尾、青柳、今村、羽田、角. 2012. 「大学生が参画するKodomo2.0のサイバー防犯活動の実践」『佐賀大学教育実践研究』第28号, 281-287
- 3) 野崎、古賀、納所、野崎、今村、石橋、古川、中村、角. 2013. 「携帯端末利用状況の調査に基づく情報モラル教育の実践」『佐賀大学教育実践研

究』第29号, 343-348

4) 青柳, 陣内, 横尾, 浴本, 中島, 野崎, 今村, 角. 2013 「情報モラル教育における演劇的手法の導入」『佐賀大学教育実践研究』第29号, 349-354

5) 陣内, 浴本, 横尾, 青柳, 今村, 野崎, 中村, 角. 2013 「小学校高学年各教科における情報モラル教育の施工」『佐賀大学教育実践研究』第29号, 355-360

6) 古賀, 野崎, 角. 2012 「高等学校1年生への携帯端末利用状況の調査に基づく情報モラル教育の検討」2012年九州PCカンファレンス in 宮崎